

序文 年報発刊にあたってご挨拶

長崎大学第二内科教授 迎 寛

今年もまた年報を出す時期がきました。前回の年報からは河野 茂学長の書で表紙を飾ることになっておりますが、今年は「和」という文字を書きいただきました。「令和」時代のはじめに、柔らかな書体で第二内科の今後を祈っていただいている感じがします。

2018年も様々な医療制度改革に翻弄された1年でした。新しい専門医制度がいよいよスタートしました。この制度により、内科は研修医が終了した後に、3年間の内科専門医研修を行い、医師として6年目に内科専門医試験を受けることとなります。そのため、3年目から呼吸器内科や腎臓内科に入局したとしても、他の内科領域の症例の経験が必要となりますので、大学では呼吸器内科あるいは腎臓内科の専門内科をまわりながら、他の内科領域の症例を持たせてもらう必要があるなど、少し面倒な状態になっています。また、その為、内科の中でも呼吸器内科や腎臓内科などの専門医資格を得るのが遅れる可能性があります。このようなことから、全国的に内科やメジャーな外科の人气が低下しているようなことも言われています。地域偏在に対する改革など、他にも色々な医療改革が行われていくことが予想され、今後も制度の変革に翻弄されることになりそうです。

医局に関してですが、今回は呼吸器内科に6名、腎臓内科2名の入局がありました。皆とても優秀であり、将来が楽しみであります。2019年度も呼吸器内科に10名、腎臓内科に5名、第二内科（呼吸器か腎臓かまだ決めていない）に1名の入局が決まっております。これも教員や医局員による、学生や研修医に対する熱意ある指導努力と同門の先生方のサポートのおかげであると思っております。また、2018年も7月と12月に第二内科学会を行いました。7月には東北医科薬科大学医学部 感染症学教室 教授の関 雅文先生に「感染症診療と感染制御の両立による総合マネジメントを目指して」、12月には川崎医科大学免疫腫瘍学 特任教授の岡三喜男先生より「肺聴診の基本、教育、そして達人技」と題したご講演をお願い致しました。お二人とも教授となり長崎大学から離れた後も大活躍をされており、特に、岡先生は川崎医科大学呼吸器内科を今回退職されましたが、その後も特任教授として大学に残られ、素晴らしい研究を続けられておられ、若い先生の刺激になったのではないかと思います。ぜひ、同門の先生方にも年2回の新入局員歓迎会と忘年会に参加いただき、若い先生に喝を入れていただければと思います。他にも春には花見、夏には納涼船、秋から冬にはボーリング大会なども行っておりますのでご都合が合えばご参加をお願い致します。

最後に、今後も同門の先生方にはご指導・ご鞭撻のほどをお願いするとともに、皆様のご健勝やご活躍を祈念しながら、今回の第二内科年報の序文とさせていただきます。